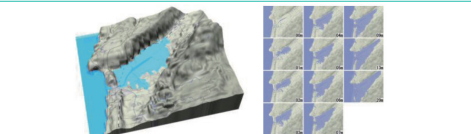


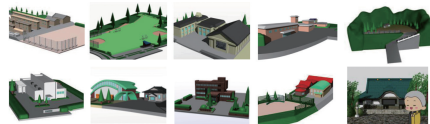
## 津波浸水範囲の可視化と避難所3次元モデルの構築による地域防災支援

東日本大震災以来、防災に対する備えの重要性がより一層認識されるようになった。津波による浸水範囲を、コンピュータグラフィックス技術(CG)を用いて、ビジュアル的に可視化することは、より正確な情報を提供することになり、市民の防災意識を高めるために役に立つ。

自治体の理解と協力があり、海に面している地域の地形データが得られた。地形データに基づいて、地形の3次元CGを構築し、津波による予想浸水範囲を可視化した。また、地域の各避難所を3次元CGで作成し、施設の特徴を強調し、覚えやすくした。さらに、ホームページを制作し、市民に津波予想範囲と避難所に関連する情報を提供した。



羽咋市の地形の3次元モデルと津波浸水地域予想の可視化結果



羽咋市の各避難施設の3次元モデル。各施設を表すキャラクターもデザインした



ホームページを利用して、市民に津波浸水予想と避難所の情報を分かりやすく伝える

石川県の海に面しているすべての地域に展開したいと計画しています。



郭 清蓮 准教授

学部：工学部 学科：メディア情報学科  
所属研究所：情報技術研究所、未来デザイン研究所  
博士(理学)。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。ソニー(株)、三菱電機(株)、京都大学研究員を経て、平成12年本学准教授就任。